

【第八章の2】大谷大学大学院文学研究科

【到達目標】

歴史と伝統を現在に伝える赤レンガのシンボル棟（尋源館）を中心に、潤いあるキャンパス空間を確保し続け、安全で快適な研究環境を確保することを目標とする。

そうした目標を実現するため、以下のような具体的な目標を掲げている。

①教育研究用施設・設備や情報処理機器の充実を図るとともに、老朽化した建物については計画的な改築をおこなう。とりわけ、文学研究科の最重要項目のひとつである研究資料収集に力を注ぎ、研究資料の主たる収集保管施設である図書館および博物館の充実を図る。

②大学院生による総合研究室利用の制限の緩和をおこなう。

(1) 施設・設備

(施設・設備等)

A群・大学院研究科の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性

B群・大学院専用の施設・設備の整備状況

【現状の説明】

本学大学院は、建物などの施設・設備を大学と共用している。

設備については、特に研究資料面での充実を図っている。本学大学院は文学研究科のみの大学院であるため、文献などによる基礎的な研究に重きを置いており、原典資料の収集に努めている。

大学院の施設・設備は、大学と共用しているが、博士後期課程の大学院生には、総合研究室において個人用の机、ロッカー、キャスター付ワゴンを支給している。総合研究室の中央部には学問分野に応じて16名の任期制助教の席を配置しており、助教は大学院生の研究支援にあたっている。さらに、博士後期課程の大学院生には、届け出によって、研究利用を目的とする日祝日の総合研究室の使用を許可している。

【点検・評価（長所と課題）】

施設・設備は基本的には大学に準ずるが、研究資料の充実については、単科大学の大学院としては豊富に所蔵していると評価できる。

【将来の改善・改革に向けた方策】

研究資料の収集については、今後いっそうの充実に向けて、関係寺院などが所蔵する資料の調査もおこないながら、新たな基礎資料を収集していく。現状では博士後期課程の大学院生にのみ認めている日祝日の総合研究室の使用許可を、2008年度からは修士課程の大学院生にまで広げる。

(維持・管理体制)

A群・施設・設備等を維持・管理するための学内的な責任体制の確立状況

B群・実験等に伴う危険防止のための安全管理・衛生管理と環境被害防止の徹底化を図る体制の確

## 立状況

**【現状の説明】**

施設設備の管理責任体制は大学に準ずる。第八章の1の「組織・管理体制」項を参照されたい。また、本学大学院は文学研究科のみであり、実験などをともなう研究活動はない。

**【点検・評価（長所と課題）】**

施設設備の管理責任体制については、第八章の1の「組織・管理体制」項を参照されたい。施設設備の管理責任体制に特段の問題はないと考えている。

**【将来の改善・改革に向けた方策】**

施設設備の管理責任体制については、第八章の1の「組織・管理体制」項を参照されたい。本学大学院は人文科学系の大学院であり、現在のところ、実験などをともなう研究活動を必要とする専攻を新設することは考えていない。

**(2) 情報インフラ**

B群・学術資料の記録・保管のための配慮の適切性

- ・国内外の他の大学院・大学との図書等の学術情報・資料の相互利用のための条件整備とその利用関係の適切性

C群・コンテンツ（文書、画像、データベース等のネットワークを流通する情報資源）やアプリケーション・ソフト（個々の応用目的をもったコンピュータソフトウェア）の大学・大学院間の効率的な相互利用を図るための各種データベースのナビゲーション機能の充実度

**【現状の説明】**

学術資料の記録・保管のための措置としては、響流館建築の際に貴重書書庫を設け、学術資料の保存を図った。また、情報化に対応すべく学内 LAN にはギガビットイーサネット回線を基幹部分に採用し、コンピュータ設備を充実し、記録・保管の環境を整えた。

国内外の他大学院・他大学との図書などの学術情報・資料の相互利用、ならびにコンテンツやアプリケーション・ソフトの効率的な相互利用を図るための各種データベースのナビゲーション機能については、第九章を参照されたい。

**【点検・評価（長所と課題）】**

学内 LAN の基幹部分に、ギガビットイーサネット回線を採用することにより、画像やデジタルコンテンツの大容量化に対応でき、大学院における教育研究の情報化に先駆けて整備がおこなわれている。

資料その他の研究環境については、総合研究室において大学と大学院生の意見交換会を定期的（年6回）に開催しており、聴取された意見をインフラ整備に役立てている。

**【将来の改善・改革に向けた方策】**

現在のところ、大学院には巨大な画像やデジタルコンテンツを扱った研究は見あたらない。しかし将来的に、たとえば厳密なテキスト・クリティークのために原典類の高精細なデジタルデータを必要とする事例が出現するようなことは十分に予想される。前述のように、大学院における教育研究の情報化に先駆けて、画像やデジタルコンテンツの大容量化に対応する整備はすでになされているので、個別の研究に対応し特化した情報インフラ整備について、適切な研究環境が提供できる柔軟な支援体制の構築を、遅滞なくおこなえるように、シナリオを準備する。